

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（伏見板橋幼稚園）

1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもも自らが心を動かし、やってみようとする気持ちがもてるような魅力ある環境構成や幼児の発達の特性や興味・関心、また育てたい力に基づいた教育課程の作成 「安心・安定」した園生活を基盤とし、一人一人が自己発揮しながら遊びを楽しむための環境構成や学年や個々の発達に応じた教師の援助 絵本に親しみ、イメージを膨らませたり遊びに取り入れたりできる環境構成と教師の援助 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊ぶ姿の変容・事例検討・週案の反省・評価の記述 アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ①「幼稚園を好きだと感じている」 ②「教職員は話しかけやすい雰囲気である」 「親子で絵本！」の活用状況、便りでの保護者のコメントや子どものつぶやき等の紹介 	
各種指標結果（1回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ① 96%（前年度結果より若干低下） ② 95%（前年度結果より向上） 「親子で絵本！」の便り（前期分）による活用の公表 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心・安定できる学級づくりに取り組み、子どもが自己発揮するための基盤づくりを行うことができたが、どの子どもも幼稚園を好きだと感じられるよう、家庭と連携した個々の対応をより丁寧に行う必要がある。家庭と十分に連携しながら、子どもが主体的に遊びを楽しむための環境づくりに努める。 園全体が懐ただしい雰囲気となり、話しかけやすい雰囲気づくりへの配慮が不十分だった。 絵本室を移動し、貸出開始が例年より遅れたが、利用しやすい環境を整えた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 遊びの姿から子どもの内面を見とり、遊びを充実させるより良い援助や環境構成のための工夫。 現在の園の教職員体制や子どもの実態に合わせた保育計画づくり 引き続き絵本の親子貸し出しを行い、「親子で絵本！」の活用を啓発するとともに、絵本に親しむ環境づくりに努める。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 保護者も子どもも幼稚園が大好きであることが感じられる。 箸を正しく持つことは、基本的生活習慣の形成という面だけでなく、ハサミを上手に扱えることなどにつながり、遊びが広がっていく。発達に応じた指導が大切である。
	評価日 平成29年10月17日 評価者 学校評議員会
各種指標結果（2回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ① 99%（前期結果より若干向上） 	

<ul style="list-style-type: none"> ・② 9 5 % ・「親子で絵本！」の便り（後期分）による活用の公表、年間100冊達成者数27名 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や気の合う友達、クラスの友達とのつながりの中で安定して過ごし、安心して自己発揮しながら主体的にのびのびと遊ぶ姿が見られた。 ・異年齢グループでの取組や、遊びの中で他学年の友達ともかかわりがもてる環境をつくることで遊びが充実し、異年齢の友達とかかわりながら楽しむ姿が増えた。 ・丁寧な保護者対応に努めることで全体の評価が高まったが、十分でないことも感じた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して自己発揮できる環境や教師のかかわりについて、引き続き探っていく。 ・教職員の連携を密にし、好きな遊びの中で自然な異年齢のかかわりがもてるよう環境づくりをする。 ・前期に引き続き、丁寧な保護者対応を心掛け、しっかりと信頼関係を築いていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園は子どもや保護者の不安を払しょくすることに努め、安心して子どもを通わせることができる幼稚園づくりに今後も努めてほしい。
	<p>評価日 平成30年3月6日 評価者 学校評議員会</p>

<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、意欲的・主体的に物事にかかわろうとする態度を育む教師の援助や環境構成 ・子どもが小学校を身近に感じ、就学への期待感を膨らませることができる交流保育や校庭利用、学習発表会リハーサル見学など、円滑な接続に向けた年間計画の策定 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事参加、交流保育と事前事後研修の実施 ・アプローチカリキュラムを意識した5歳児教育課程の検討と作成 ・小学校との交流や施設利用状況 ・就学前の情報交換・就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継 <p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との年間計画の共有・交流保育の日程調整・共通理解が1学期に実現 ・小学校の養護教諭（兼務）による視力・聴力検査を実施 ・宿泊保育のキャンドルファイナーを小学校体育館で実施 ・就学支援シート作成進行中 <p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で養護教諭（兼務）による視力・聴力検査を実施したり、小学校施設を利用したりすることで、小学校に親しみを感じ、年長児の就学への期待感が膨らんできた。 ・早期の小学校との打ち合わせが実現し、年長児や一年生の様子についての共通理解、年間計画の共有や見通しをもった交流計画を立てることができた。 	
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して参加し、小学生により親しみを感じができる交流保育のあり方について小学校と連携することが必要である。 ・幼小連携や交流について、保護者に十分に伝えきれていなかった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に合わせた小学校との交流保育の在り方について小学校と共有する。 ・降園時の保護者への話やおたより、ホームページ等を積極的に活用し、子どもの姿や取組内容について保護者によりわかりやすく伝えていく。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・あまり手がかからず、よくできている子どもが多い。小学校へ行く機会も多く、地域に馴染みながら育ち、就学してもすんなり馴染んでいる様子がうかがえる。例年行われている幼小交流が十分に効果をもたらしていると感じる。校区にはいろいろな園があり、幼小交流活動については他の園とのバランスにも配慮したい。
評価	評価日 平成29年10月17日 評価者 学校評議員会
	各種指標結果（2回目） <ul style="list-style-type: none"> ・1年生と年長児の交流2回（11月、3月）、学習発表会リハーサル見学（年中・年長児） ・就学前の情報交換・就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継 ・小学校の研究発表・授業参観、図工展見学
自己 評 価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流打ち合わせの実施が前年度より早く実現し、年間計画を作成し見通しをもった交流が実現した。 ・幼小交流により就学への期待感と安心感につながった。 ・幼小連絡会を実施し、年長児や卒園児の姿について共有した。 ・積極的に研究発表への参加や図工展見学をし、共通理解を深めることができた。 ・アプローチカリキュラムを意識した教育課程をさらに充実させていく。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も積極的に小学校に働きかけ、早期に年間計画を作成し、充実した連携をはかる。また小学校行事への参加で共通理解を深める。 ・教職員の働きかけや子どもの姿から、幼小連携や交流について保護者の理解も深まった。引き続き、保護者にも取組の様子について丁寧に知らせていく。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について深め、子どもの成長を見通した教育課程作成と保育の充実を図る。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校が隣接している良さや連携していることをしっかりとアピールしたい。
評価	評価日 平成30年3月6日 評価者 学校評議員会

3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む

心と体・生活習慣

- ・個々の子どもの発達や能力に合わせ、様々な体の動きを試しながら全身を使う運動遊びを取り入れた保育計画
- ・安全に十分配慮した、遊具や用具、園庭の自然などの環境づくり
- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう体操やダンスを取り入れた保育計画
- ・基本的生活習慣を形成するための環境構成や保護者への啓発と連携
- ・子どもが自分自身の身体や健康への興味・関心を高めるための保健指導

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・アンケート項目
 - ①「身体を動かして遊ぶことが好きである」
 - ②「持ち物の始末や着替えなどの基本的生活習慣における項目」(各学年)
- ・子どもの安全・健康に対する意識の変容

各種指標結果（1回目）

- ・①100% (前年度結果より向上)
- ・②3歳児89% 4歳児96% 5歳児88% (前年度結果より向上)
- ・季節や子どもの姿に合わせた毎月の保健指導の実現
- ・職員室入口での保健関係の写真や資料掲示の工夫による子どもの意識の向上

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・園庭の豊かな自然に心地よさを感じたり、ボールや跳び箱など運動遊びの環境が充実したりしたことで、園庭で友達や先生と一緒に遊ぶ楽しさを味わう子どもの姿が増えた。 ・基本的生活習慣が定着している。 ・園庭開放時の片付けを、親子できちんとしようとする姿が増えてきた。 ・興味をもって保健の話を聞いたり、掲示物を見たりする姿が増えた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、寒さに負けず身体を動かして遊ぶ心地よさを感じられるよう教師も共に遊ぶ。 ・基本的生活習慣がしっかりと定着するよう、発達年齢に応じたかかわりを今後も行う。 ・大人が手本となるよう園庭開放後の片付けの啓発に努めるとともに、園内環境を見直し、片付けやすい整理された環境づくりを行う。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の形成は大切である。鉛筆や箸の正しい持ち方を家庭と連携しながら指導してほしい。 ・子どもが園で集団生活を送るようになって初めて我が子の育ちに気づく保護者に対する園の役割は大きい。 ・家庭で自動水栓や洋式の全自動トイレなど便利な生活を送っている子どもが多くなっている。和式トイレの使い方や排せつ後の始末の仕方などの指導は大切である。
	評価日 平成29年10月17日 評価者 学校評議員会

各種指標結果（2回目）

- ・①100%
- ・②3歳児95% (前期結果より向上) 4歳児89% (前期結果より若干低下) 5歳児97% (前期結果より向上)
- ・保健指導の充実や子どもの意識の向上

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員同士が連携し、運動会終了後も異年齢でリレーやしっぽとり、体操やダンスを継続して楽しみ、冬の朝マラソンでも体を動かす心地よさを感じることができた。 基本的生活習慣が定着してきたが、年少児においては、身の回りの始末や食事のマナー等、今後も指導していく必要がある。 楽しく安全に遊ぶための遊具の使い方や遊び方について、発達に応じて指導した。 園庭開放時の片付けを親子できちんとしようとする姿がある。 手作り教材で工夫した保健指導や掲示物等により、子どもの健康への意識が高まった。 		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を動かす楽しさを感じるためのかかわりや運動遊びの環境改善に引き続き努める。 年少児には、身の回りの始末や食事のマナー等の定着のため、今後も継続して指導する。 安全に遊ぶための約束やルールが習慣となるよう、継続して安全指導を行う。 より子どもが楽しみながら学べる保健指導を充実させる。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用率が低下している。横断歩道の前で保護者が立ち話をし、子どもがうろうろして危険である。見守り隊や地域の大人として注意喚起をしたり、自分ができることを行ったりして地域の安全を守りたい。 		
	<table border="1"> <tr> <td>評価日 平成30年3月6日</td><td>評価者 学校評議員会</td></tr> </table>	評価日 平成30年3月6日	評価者 学校評議員会
評価日 平成30年3月6日	評価者 学校評議員会		

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

- 子どもが安心安定した園生活を送るための教師との信頼関係づくり
- 各学年の発達に合わせた計画的な異年齢交流（幼稚園きょうだい）
- 幼稚園きょうだいの取組における各学年のねらいの保護者への発信
- 子どもが葛藤やつまずき、折り合いをつける姿を大切にした丁寧なかかわり
- 決まりを守る必要性を意識できる、ルールのある遊びなど具体的経験の充実
- 子どもが自己有用感をもてる教師のかかわり
- 高齢者や地域の人々と触れ合い

（取組結果を検証する）各種指標

- エピソードや研究保育における協議検討
- アンケート項目
 - ①「自己発揮や人とのかかわりに関する項目」（各学年）
 - ②「教職員は、一人一人の子どもを大切にし、温かいかかわりをしている」
- 幼稚園きょうだいの取組を通した子どもの姿の変容やアンケートによる保護者の意見

各種指標結果（1回目）

- ①3歳児 85%（前年度結果より若干低下） 4歳児 91% 5歳児 93%
- ②93%（前年度結果より若干低下）
- 自然な異年齢交流の姿やアンケート自由記述に肯定的意見多数あり

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの人数が多いことに対する保護者の不安に対し、人数が多いクラスにはマイナス面だけでなくプラスの面もあるという説明が十分にできていなかった。クラスや個々の子どもの様子やその変容について丁寧に伝える必要がある。 ・好きな遊びの中での自然な異年齢交流が活発に行われたが、幼稚園きょうだいの取組の在り方についての教員間の共通理解と保護者への説明が十分でなかった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの様子や個々の子どもの成長について、保護者に知らせる機会を十分にもつ。 ・幼稚園きょうだいの在り方についての共通理解と子どもの実態を十分に把握し、取組に活かす。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は表面的には落ち着いているが、ネット社会特有のトラブルがあり、人とかかわることが苦手な生徒が多い。表面上は反抗しても、幼稚園で教えてもらったことは心の根底に残っているはずである。幼稚園で人とかかわる力をしっかりと育んでいくことが大切である。 ・家族以外の人に対しても、やさしくかかわることができる力を育んでほしい。 ・友達に嫌なことをされても、相手のことをよく知っているからこそ許せるという関係性を子どもは築いている。 ・保護者同士のつながりが強く、相談できる関係である。子どもはたくさん目の目で見守られながら育ち、見られていると感じることで、してはいけないことへの抑制効果がある。
	<p>評価日 平成29年10月17日 評価者 学校評議員会</p>

各種指標結果（2回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ・①3歳児95% 4歳児97% 5歳児91% （3・4歳児は前期結果より向上） ・②95%（前期結果より向上） ・行事や主体的な遊びにおける異年齢交流の充実 ・異年齢グループの取組における子どもの姿に成長を感じる保護者の意見あり（アンケート自由記述欄より） 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達だけでなく他学年の遊びや様子にも関心をもって、主体的に自分たちの遊びに取り入れたり仲間入りしたりして、夢中になって遊ぶ姿が見られた。 ・担任以外の教職員にも親しみをもち、幼稚園きょうだいでのかかわりを積み重ねるにつれて、互いに親しみを感じながら、責任感や自己有用感、思いやり、憧れの気持ち、折り合いの心をもつことができた。保護者も我が子の育ちを実感できた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係を基盤に、安心し安定した幼稚園生活を送れるよう努める。 ・引き続き、学年の発達や子どもの姿に応じた無理のない幼稚園きょうだい活動の取組について考え、実践する。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> 対応の難しい保護者は、今、園に訴えてきていること以外に何か問題を抱えているのかかもしれない。思いに耳を傾けながらやつたりと対応することで見えてくることもある。 本当に子どものことを考えて行動できる保護者であるよう啓発することが大切である。 	
評価日	平成30年3月6日	評価者 学校評議員会

園独自の項目	
<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を通した健やかな心の育成（一人一鉢栽培などによる野菜や花の栽培・小さな生き物との触れ合いや飼育活動・食育） 小学校・中学校・地域・家庭との連携（視力検査・聴力検査・小学校の校庭利用・交流保育・チャレンジ体験・祭り・地域防災訓練・地域交流会・地域と連携したPTA活動・サンサンママによる行事参加） 情報発信の充実（降園時の話・園だより・ホームページの更新） 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ①「身近な動植物に興味・関心をもったり、大事にしようとしたりしている」 ②「園は、小学校・中学校・地域・家庭とのつながりを大切にしている」 ③「園の教育方針や子どもの活動の様子は伝わっている」 ・飼育・栽培活動を通した子どもの姿の変容 ・ホームページのアクセス数と保護者からの反応 	
各種指標結果（1回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ① 96%（前年度結果より上昇） ② 96% ③ 96% ・2017年度アクセス数 11344（10月25日付） ・保護者や祖父母がホームページを楽しみに見ているという意見あり（アンケートより） 	
自己 評 価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> 園庭の木々や草花などの豊かな自然の中で、虫とりや種取り、オシロイバナの色水遊びを楽しんだり、夏野菜を収穫して味わったりすることができた。 玄関に設けたアゲハの幼虫の観察コーナーやビワの収穫を、親子で何度も楽しみ、子どもだけでなく保護者も関心をもって一緒に自然に関心をもち親しむ経験ができた。 毎日のホームページアップによる積極的な情報発信ができた。
学校 関	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、身近な自然や動植物にかかわって命を大事にできる子どもを育てる保育を計画的に行う。 ・幼小交流や幼中交流、地域や園と連携したPTA活動について、降園時の話やホームページ、お便りなどで積極的に発信する。
学校 関	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで孫の様子をみることを楽しみにしている祖父母が多い。個人情報の保護という点も大切にしながら、“孫の顔が見える”ホームページ作りを工夫してほしい。

係 者 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・園と地域とのかかわりが十分に行われていることは、毎年保護者が PTA 活動に参加していくことで、次第に実感できることである。 ・園での PTA 活動を通して、いろいろな保護者と出会い、新しい人間関係を築くことができ感謝している。 ・園は子どもだけでなく、保護者も巻き込んだ園の在り方を大切にしていく。
	評価日 平成 29 年 10 月 17 日 評価者 学校評議員会

各種指標結果（2回目）

① 95%

② 99%（前期評価結果より若干向上）

③ 96%

・2017年度アクセス数 18332（3月16日付）

・降園時の話やホームページ等、子どもの様子がよくわかる等の意見あり（アンケートより）

・未就園児こっこ組との交流保育（4・5歳児各1回ずつ）

自 己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャボの飼育活動の年長児から年中児への引継ぎが行われ、責任感や進級する喜び（年中児）、チャボへの愛着等をもつことができた。 ・クラスでの飼育活動を通し、生き物に親しみを感じ大事に思う心を育むことができた。 ・全園児で、収穫物を調理して味わう喜びを感じることができた。 ・預かり保育で降園時間がまちまちであることや教員の研修や出張などのため、降園時の担任からの話が保護者全体に伝えづらくなっている。 ・PTA 活動に対する保護者の捉え方に変化が見られ始め、理解を促したり、取組について周知したりすることが難しかった。 ・インフルエンザの流行により、年長児が地域のお年寄りと交流する地域交流会や、3歳児と未就園児こっこ組との交流保育が中止となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとってわかりやすい園だよりの作成に努め、掲示板を活用しながら周知できるようにする。 ・行事の精選や子どもを中心とした取組内容を検討し、保護者と連携しながら PTA 活動の見直しを図るとともに、しっかりと発信していく。 ・地域の様々な人や未就園児こっこ組と触れ合う機会をつくっていく。
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園では学校と違い、親同士出会う機会がある。保護者同士のかかわりに苦手意識のある保護者もいるが、保護者同士のつながりが子ども同士のつながりにも活かされていふことを伝えていきたい。 ・PTA 活動を通して、地域に長く住んできて気づかなかった地域団体とのつながりを初めて知った。
	評価日 平成 30 年 3 月 6 日 評価者 学校評議員会